

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

夏の観光シーズン終盤の8月下旬、長野県長寿社会開発センター白馬グループのメンバーが朝8時に八方第5駐車場に集合。丸山

高会長の1日のスケジュールの説明に聞き入る。八方から猿倉間の県道白馬岳線沿道と白馬岳登山道と白馬鍾温泉登山道の分岐点までの毎年実施している美化清掃作業、事故の無いように細心の注意を説明。地元にも、山岳地域に入る機会は限られているので、会員にとっても楽しみにしている作業の1つだ。散乱しているゴミが少なかつた。今年の天候不順による登山客の減を痛切に感じてしまう。

ポーツに移動。待ち構えていた就労継続支援B型事業所クロスロード白馬で作業に励む利用者メンバー。5班に編成されたチームに会員が加わり交流開始。メンバーとの楽しい会話、白馬グループ活

と関心を寄せる。昼食交流会は、グリーンスポーツ広場での焼肉会食。顔見知りの利用者からは、「ウインナーと焼きそば、忘れないで」と会うたびに念叨されるほど楽しみにしている行事だ。クロ

が解る。日常の生活指導の場面を想像するだけで、本当にご苦労様と伝えなくなる。地域の人達と一緒に食事会の機会が限られている利用者達。笑顔一杯で食事をしている利用者との社会交流

## 地域弱者への関心とつながりは、これから の地域福祉を考える良い機会でもある

は、高齢になつた白馬グループのメンバーも楽しめる場面だ。この笑顔に出合うたびに、来年も、この意欲が湧いてくる。地域の中で、お互い認め合い、支え合う社会の実現は他人事ではない。高齢化社会が急速に到来し、地域で孤立する老人社会が危惧されてきている。だからこそ、高齢者自身が望む、豊かな社会実現の為に行動するべきだと認識しているのだから。シニア大学での学

びが実社会でも実行できていく白馬グループの活動に注目してほしいと思っっている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



地域の中で自らができる事は積極的に取り組もうと集まろうと見えてくる